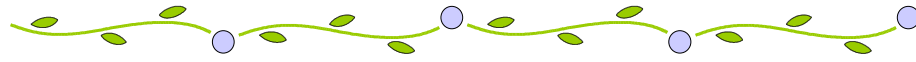


市川を調べる

発行 八戸市立市川公民館(氣田 武男)
市川を調べる会(会長 星 一郎)



市川昔がたい⑤

市川地区は盛岡藩だった

多賀台 奈良孝次郎

1.【五戸代官所の支配地】

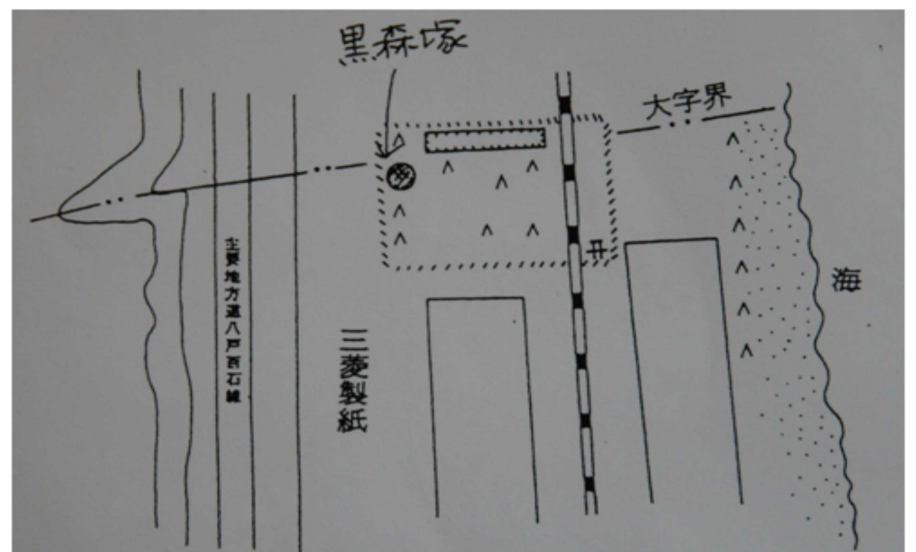
江戸時代のはじめは、市川地区も八戸も同じ盛岡藩領(10万石)だった。それが寛文4(1664)年に、ある事情で分割された。その事情とは、当時の盛岡藩主が後嗣ぎをきめないで死去したからで、許されないことだった。それで、江戸幕府は盛岡藩10万石を分けて新しく与えることにし、8万石を盛岡藩、そして2万石を八戸藩とした。

2.【市川は八戸藩の北隣になった】

八戸藩は、八戸を中心にして南は岩手県の葛巻辺まで、北隣は市川地区になった。その藩境は、当時の市川街道に沿い、現在の三菱製紙敷地内である。そこに藩境を示す塚が造られ、藩政時代にはきちんと維持されて**黒森塚**といわれた。

昭和に入ってから防災のための植林が行われ、黒森塚の存在ははっきりしなくなったが、確かに存在していることは右の地図でわかる。参考:「八戸地域史7号」(八戸歴史研究会)

黒森推定地模式図



3.【ふたたび市川払いについて】

前に(第2号)市川払いについて書いたが、それは八戸藩で重罪でない罪人を追放するしくみで、当時ほどの藩でも行われたことだった。例えば元禄15(1702)年の藩日記(5/14)に以下のような記録が記されている。“盗みを重ねた三九郎という者を詮議した結果、事実だったので市川へ追放する。” 所払いされた人はこのあと自分で生きる場所を求めて立ち去ったのであり、**市川に住んだわけではない。**

4.【明治3年に斗南藩領になった】

慶應4(1868)年、明治政府は東北の地で會津藩や仙台藩や盛岡藩と戦い、勝利した(戊辰戦争)。その結果敗れた藩は減封されたり追放されたりした。盛岡藩は減封され、市川地区など五戸代官所支配地は、新たに生まれた斗南藩領とされた。斗南藩はわずか1年余で廃され、弘前藩や八戸藩などとともに青森県になった。